

[13] 延岡市小体連

( 学校数27校 児童数5974名)

I 年間事業

	事業名	事業内容	会場
5月 8日 (月)	第1回理事会	○ 会計予算審議 ○ 活動計画及び事業計画審議 ○ 役員選出	北浦小
6月 6日 (火)	第2回理事会	○ 器械運動教室内容審議 ○ 本年度の研究計画について	北浦小
8月 7日 (火)	器械教室運動前日準備	中止	東小
8月 8日 (水)	令和4年度 延岡市器械運動教室	中止	東小
8月24日 (木)	第3回理事会	○ スポーツフェスタについての審議 ○ 器械運動教室反省 ○ 授業研究会事前研	南小
11月20日 (月)	第4回理事会	○ 研究授業 6年ネット型 (ソフトミニバレー) ○ 授業研究会	旭小
12月7日 (木)	スポーツフェスタ前日準備	○ 会場設営 ○ 役員打合せ	西階陸上競技場
12月8日 (金)	令和5年度 延岡市小学校スポーツフェスタ	○ 陸上、野球、サッカー、タグラグビー、生涯スポーツ、ホッケー、50M走	西階陸上競技場及びその周辺の競技場
2月20日 (火)	第5回理事会	○ 年間事業反省	北浦小

II 事業部のあゆみ

1 器械運動教室 **※感染症拡大予防対策のため中止。以下、行う予定であったものを記載**

- (1) 大会名 令和5年度延岡市器械運動教室
- (2) 期 日 令和5年8月8日 (水)
- (3) 会 場 延岡市立東小学校
- (4) 参加者 延岡市立の小学校に通う3・4年生の希望児童 47名
- (5) 内 容 マット運動 (前転・後転) 跳び箱 (開脚跳び)
- (6) 実施方法 ○ 50名の児童を12班に分け、少人数で指導を行う。
- (7) 日 程 ○ 開講式 9:00  
○ 実技指導 9:20  
○ 閉講式終了 11:30
- (8) 表 彰 参加児童全員に、修了証を配付する
- (9) 反 省 (成果と課題)

## 2 スポーツフェスタ

- (1) 大会名 令和5年度延岡市小学校スポーツフェスタ
- (2) 期 日 令和5年12月 8日(金)
- (3) 会 場 西階陸上競技場及びその周辺の競技場
- (4) 参加者 延岡市立の小学校に通う6年生児童(一部5年生児童を含む)
- (5) 種 目 ○ 50M走及び生涯スポーツ(全員)  
○ 陸上、野球、サッカー、タグラグビー、ホッケー(選択)
- (6) 実施方法 ○ 地域の方々を中心に講師を依頼し、様々なスポーツに親しむ。  
○ 延岡市の小学校27校を集め、1日開催で行う。
- (7) 反省(成果と課題)
  - 地域の方を中心に指導者として協力していただき、充実したスポーツフェスタであった。
  - 今年度より、児童へのアンケートも行ったが、アンケートに回答している児童のほとんどが「楽しかった」と回答していた。
  - 今年度より、新たに「ホッケー」も加え、延岡市の児童がさらに様々なスポーツに触れる機会を提供することができた。
  - インフルエンザの流行があり、学年閉鎖や学級閉鎖の影響で参加できない学校があった。
- (8) 児童の感想

今日は、スポーツフェスタでした。午前中のサッカーでは、〇〇小の人や〇〇小の人と協力し、1勝はできたので嬉しかったけど、僕よりもテクニックが豊富で、4、5点入れていて、悔しかったし、うらやましかったです。僕もあんなふうになりたいと思いました。午後の50m走は、スタートダッシュをミスってしまいましたが、7.85の自己新記録が出て嬉しかったです。ペタンクでは、〇小の人と笑い合いながらできて、一番楽しかったです。でも、一番印象に残っているのは、たくさんの友達と会えたことです。サッカーの友達や、幼稚園の友達などと大体20人くらいと出会えて、懐かしく嬉しかったです。

## 3 体力向上の取組

- (1) 期 日 令和5年8月
- (2) 対 象 延岡市立小学校教職員
- (3) 内 容 延岡市小学校体育動画共有システムの構築(通称 TaiikuTottoku)
- (4) 取組内容
  - ① 体育の学習で撮影した動画や指導案、単元計画等を TaiikuTottoku (GoogleSite) に投稿する。
  - ② 投稿された動画や資料を、各校の先生方が閲覧したりコメントをしたりする。
- (5) 内容の詳細

Googleのサービス「GoogleSite」を活用し、延岡市小学校体育動画共有サイト「TaiikuTottoku(タイクトットク)」を立ち上げた。各学校で撮影した体育動画を共有することで、児童の意欲向上や教師の指導法共有を図り、延岡市小学生の体力向上につなげることがねらいである。

現在は、職員間での活用のみとしているが、先々は児童の肖像権の課題等も解決して、以下のような取組を行っていききたい。

**【単元のまとめとして】** Ex) 器械運動の集団演技を動画で撮影して投稿しよう!

**【単元の導入として】** Ex) 〇〇小でこんな運動をしていたよ、みんなもこういう動きを目標にがんばろう!

**【指導の材料として】** Ex) 〇〇小でとてもいい動きのチームがいたよ! どんなところがいい動きか探してみよう!

**【指導の参考として】** Ex) へー! こんな体づくり運動の指導があるのか! やってみよう!

### Ⅲ 研究部の歩み

#### 1 本年度研究主題

運動を楽しみ、主体的・対話的に学ぶことのできる児童の育成(1年次)  
～思考力・判断力・表現力の育成を目指した授業改善と延岡市体育動画共有システムの構築を通して～

#### 2 主題設定の理由

社会の急速な変化や先の予測困難な時代の中で、今、学校教育では、子どもたちが様々な変化に主体的に向き合い、他者と協力して課題解決していく力や、様々な情報を見極め、理解する力、情報を結び付けて新たな価値を見出す力、複雑な状況変化の中で目的を再構築する力の育成が求められている。延岡市小体連では、昨年度、主体的・対話的で深い学びを視点として授業改善に取り組んだ。その成果として、意欲的に運動に親しむ中で技能を向上させていく児童の姿を見ることができた。また、GIGA スクール構想により、児童に一人一台タブレットが整備され、昨年度の研究においても有効に活用することができた。

一方で、思考力・判断力・表現力を育む授業の在り方については課題を残すところとなった。ICTの活用についても、学習に有効な様々な機能やサービスがあるものの、それらを十分に活用できていない状況である。

そこで、本年度は「運動に親しみ、主体的・対話的に学ぶことのできる児童の育成～思考力・判断力・表現力の育成を目指した授業改善と延岡市体育動画共有システムの構築を通して～」を研究主題として研究を行っていく。具体的には、「知識構成型ジグソー法(以下、ジグソー法)」による協調学習を用いた体育科の授業実践を行い、特に思考力・判断力・表現力に育成を目指した授業改善を行っていく。また、ICTを活用し、体育科学習で撮影した動画などを市内の職員が手軽に共有できるシステムを構築することで、児童の主体的な学びや教師の指導力の向上を図っていくことで、研究主題に迫っていきたい。

#### 3 研究の構想(研究の仮説、研究内容)

(宮崎県小学校体育連盟研究主題)

生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の基礎を育む体育科学習

～児童一人一人の思考力・判断力・表現力等を養う授業の創造と展開～

#### 【延岡市小学校体育連盟】

運動を楽しみ、主体的・対話的に学ぶことのできる児童の育成(1年次)  
～思考力・判断力・表現力の育成を目指した授業改善と延岡市体育動画共有システムの構築を通して～

#### 【研究仮説】

協調学習(ジグソー法)を用いた体育科学習の在り方に関する授業研究を通して、思考力・判断力・表現力の育成を目指した授業改善を行うとともに、体育科学習で撮影した動画や指導案等を延岡市内の職員で手軽に共有できるシステムの構築を行えば、運動に親しみ、主体的・対話的に学ぶことのできる児童を育成することができるであろう。

#### 【研究内容①】

○思考力・判断力・表現力の育成を目指した授業改善  
・協調学習(ジグソー法)を用いた体育科学習の在り方に関する授業研究

#### 【研究内容②】

○延岡市体育動画共有システムの構築  
・体育科学習で撮影した動画や指導案等を市内の職員で手軽に共有できるシステムの構築

#### 4 研究の実際

##### (1) 思考力・判断力・表現力の育成を目指した授業改善

###### ① ジグソー法を用いた体育科学習の在り方に関する授業研究

令和5年11月20日(月)に授業実践を行い、研究仮説の検証を行った。

領域	単元名	学年	授業者
ゲーム(ネット型)	ソフトバレー	6学年	南方小学校 下り藤 雅也 教諭

研究を行った学級の児童は、33名で構成されている。本学習を行うに当たり、事前にアンケートを行った。

(7月12日実施)

	楽しい	まあ楽しい	あまり楽しくない	楽しくない
運動は楽しいですか。	25	7	1	0
体育は楽しいですか。	21	11	0	1
跳び箱運動は楽しいですか。	11	15	6	1

ロイロノートを活用したアンケートから、多くの児童が運動も体育も好きであることが分かった。しかし、「運動は楽しいですか」で「楽しい」と答えている児童が25名、「体育は楽しいですか」であり、「楽しい」と答えている児童が21名いることに対して、「跳び箱運動は楽しいですか」で「楽しい」と答えている児童が11名と数が減っているという現状もあり、跳び箱運動の楽しさを実感させていくことが課題である。

そこで、本単元では、柔軟性を高めたり、苦手なことに挑戦したりするという面から器械運動の跳び箱運動を扱った。跳び箱運動は「踏み切り」、「着手」、「空中動作」、「着地」の4つの場面から成り立つ運動である。切り返し系や回転系の技について挑戦し、達成したときに楽しさや喜びを味わうことができる教材である。また、学級の課題である「跳び箱運動の楽しさを十分に実感できていない」「自分の意見を伝えられない」、「課題が難しすぎると動けない」等を解決するために、ジグソー法で学習を進めていった。協調学習とは1つの課題について、考えの違う者同士が対話した後に自分の考えを見直して課題解決を図る学習である。具体的には、課題について自分の考えをもつホームグループ(HG)活動、課題について異なる角度からの答えにつながる部品を基に活動するエキスパート活動、異なる考えを統合的に活用して課題にアプローチするジグソー活動、その活動で作上げた考えを全体で交流するクロストーク活動、課題についての考えをもう一度自分で出す個人活動の5つのステップを用いた学習方法である。この学習活動を行っていくことで、エキスパート活動では各エキスパート活動でしか学んでいないことをHGに戻った際、「伝えたい」という気持ちが芽生え、他のエキスパート活動では何を学んだのか「聞きたい」という気持ちが出てくる。各エキスパート活動で学んだことを次のジグソー活動で伝え、自己と他者で課題を解決していくようにした。

そこで単元前半は、活動を進めるにあたってのルールを知る時間を1時間取る。実際に跳び箱を出したり、どこに何を置いたりなど児童が動きながら確認して行うことで安全にテンポよく場の設定や機械・器具の扱いを進めていけるようにする。スモールステップで学習を進めながら児童と一緒に開脚跳びと台上前転のポイントを整理し、練習方法とその練習で意識してほしいことをジグソー法で進めた。苦手な児童に対しては技ができるまでの支援を行ったり、児童同士で撮影をしながら対話をして技に挑戦したりして全員が2つの技ができるようにした。またICT機器を使ったり、スモールステップで学習をしたりして自分の考えを相手に伝える学習を進め、全体を進めることで児童全員がその技のポイントやできるための練習方法を伝えられるようにした。そのため、「自分の考えを相手に伝える事」についての評価の方法としては技ができた、できなかったではなく、「その技を行うためにはこのポイントをおさえ、できるためにはこの練習をして、あるポイントを意識するとよい」を相手に伝えることができることを取り扱うこととした。

##### (2) 成果と課題

- ジグソー法を活用することで、受け身にならず児童一人一人が主体的に活動を進め、「なぜ、抱え込み跳びができないのだろう」「どうすればできるようになるのか」と考えながら活動に取り組むことができた。
- ジグソー法に適す運動領域と適さない領域があるので、その判断が難しい。ジグソー法を用いた授業実践を増やし、見極めて行く必要がある。